

すべての外科疾患に対応できる 本物の外科専門医になる

外科

千葉県北総地域の基幹病院として、また印旛地区のがん拠点病院として手術件数は年々増加しています。悪性疾患については特に力をいれており、それぞれのガイドラインにのっとり標準的な治療をするのが基本ですが、患者の個別性を考慮したきめ細かい治療方針を術前・術後のカンファレンスにおいてスタッフ全員で検討・決定しています。また1次から3次まで救急を受け入れており、急性虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔、腹部外傷など24時間常時対応しています。

部長のほかに臨床経験10年以上の中堅スタッフが中心となり、精力的に診療と研修教育に当たっています。スタッフは皆豊富な臨床経験と各専門分野を有し集学治療、外科侵襲と栄養代謝、外科病理学、内視鏡診断と治療、血管造影検査、超音波診断学、等の得意分野を持ち、最先端の知見を臨床の場に生かせるよう努力しています。



副院長・外科専門プログラム責任者

清水 善明

外科学会専門医、外科学会指導医、
消化器外科学会専門医、消化器外科学会指導医、
肝胆膵外科学会高度技能指導医、
がん治療認定医、
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

1～3年間

02 目的

- すべての外科疾患の救急診療、急性期診療、慢性期診療（ターミナルケアを含む）に適切に対応できる外科医を育成すること
- 将来、下記資格を取得するのに必要な症例を経験すること
 - ・外科専門医 ・消化器外科専門医 ・乳腺専門医

03

到達目標

(目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

- (1) すべての外科疾患の救急診療、急性期診療、慢性期診療（ターミナルケアを含む）に適切に対応できる診療能力を習得する
- (2) ほぼすべての外科疾患の手術を数多く経験する
- (3) 超音波検査（腹部、乳腺）・内視鏡検査（上部、下部）・レントゲン検査（胃透視、注腸造影）・PTBD・血管造影等主要な検査を指導医のもとで研修し手技を習得する
- (4) 標準的ながん化学療法の知識を習得し、実践できる
- (5) 緩和ケアの技術を習得する
- (6) 栄養サポートチーム（NST）へ参加し栄養管理の知識技術を習得する

04

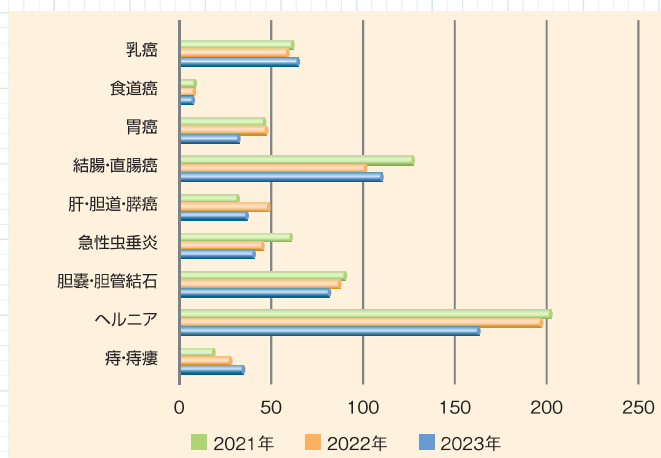
週間スケジュール

	月	火	水	木	金
AM7:30～		抄読会			
午前	外来 病棟回診 胃透視 上部内視鏡	手術 外来 病棟回診	外来 病棟回診	手術 外来 回診 胃透視 上部内視鏡	手術 外来 病棟回診
午後	下部内視鏡 超音波 注腸 各種検査 緩和外来 NST回診 緩和病棟回診	手術	下部内視鏡 超音波 注腸 各種検査 緩和外来	下部内視鏡 超音波 注腸 各種検査	手術
PM17:30～		カンファレンス			カンファレンス

- (1) 外来：週1回、主に入院中受け持った患者の外来経過視察（化学療法を含む）を行う。
- (2) 病棟：担当医として7～10人程度の入院患者を受け持つ。指導医が主治医としてともに診療に当たる。定期的なカンファレンス、回診などで治療方針を決定する。
- (3) 手術：後期研修医は基本的に受け持ちの患者の執刀をする。
- (4) 救急・当直：月に3回程度当直業務を行う。緊急手術の際は、上級医を呼び手術する。
- (5) カンファレンス：胃透視・注腸造影・マンモグラフィーの読影を放射線科医師・技師と行う。
1週前の手術症例の病理を検討し今後の治療方針を決定する。
1週後の手術のプレゼンテーションを行う。

05

研修期間中に経験する症例等について



初期臨床研修医及び専攻医は、入院患者を主治医である上級医とともに担当医として受け持ち、初期臨床研修医（1年目）は手術症例の助手として、外科の手術手技の基本を学ぶ。また外科系の診療科を専攻希望の初期臨床研修医（2年目）は、鼠径ヘルニアや腹腔鏡下胆嚢摘出術などの術者として、専攻医は、さらに胃癌・大腸癌に対する手術や緊急手術の術者として、外科の手術手技の習得を目指す。